

令和2年度

令和3年3月1日 第10号



梧中だより

作成者：荒川区立第五中学校長 岡本 芳明

○「令和2年度学校関係者評価」の結果報告（集約結果は3月中旬にHPに掲載しています。）

生徒、保護者、学校評議員の皆様にご協力いただきました「令和2年度学校関係者評価」（①～⑳の設問）の集計も終わり、本年度も学識経験者として元第五中学校副校長 佐藤 栄一郎先生をお迎えし、結果の分析と来年度に向けての改善案の検討等の意見交換を行いました。

令和元年度の結果と比較すると、25項目中14項目で「あてはまる」「ややあてはまる」の肯定的な評価がアップしました。肯定的な評価の割合が80%以上を示している項目が17項目と昨年度に比べ5項目増えました。昨年度に比べ肯定的な評価が下がってしまった項目についてはその要因を分析し来年度の課題としていきたいと思っております。アンケート結果に関する学識経験者の分析結果と考察を掲載いたします。引き続き第五中学校の教育活動へのご支援とご理解をよろしくお願いいたします。

令和2年度 学校関係者評価「生徒のアンケート結果」から

* 平成30年度、令和元年度、令和2年度の経年変化を以下に報告いたします。

* 数値は5段階評価「5 よくあてはまる」「4 ややあてはまる」の肯定的割合の合計です。

		30年度		R1年度		R2年度
1	教育目標・校訓	<u>66.7%</u>	⇒	<u>87.6%</u>	⇒	<u>88.7%</u>
2	生徒の様子	<u>91.5%</u>	⇒	<u>96.5%</u>	⇒	94.6%
3	基本的生活習慣	<u>89.4%</u>	⇒	<u>96.4%</u>	⇒	<u>98.4%</u>
4	生徒理解	<u>69.1%</u>	⇒	<u>81.1%</u>	⇒	<u>81.2%</u>
5	安全・安心	<u>79.1%</u>	⇒	<u>91.8%</u>	⇒	<u>91.9%</u>
6	分かる授業	<u>56.0%</u>	⇒	<u>74.0%</u>	⇒	<u>80.4%</u>
7	個に応じた指導	67.7%	⇒	<u>74.6%</u>	⇒	<u>85.1%</u>
8	学習習慣	46.8%	⇒	<u>63.1%</u>	⇒	<u>67.6%</u>
9	情報教育	<u>76.6%</u>	⇒	67.5%	⇒	<u>81.3%</u>
10	読書指導	<u>71.4%</u>	⇒	69.1%	⇒	<u>69.2%</u>
11	人権尊重教育	<u>82.7%</u>	⇒	<u>91.7%</u>	⇒	88.3%
12	道徳教育	<u>72.3%</u>	⇒	<u>83.3%</u>	⇒	82.9%
13	教育相談	47.5%	⇒	<u>62.2%</u>	⇒	58.6%
14	人間関係づくり	<u>85.8%</u>	⇒	<u>92.9%</u>	⇒	92.0%
15	自治的な活動	<u>74.3%</u>	⇒	<u>79.6%</u>	⇒	<u>82.9%</u>
16	情報発信	<u>62.4%</u>	⇒	<u>65.7%</u>	⇒	<u>70.9%</u>

17	相談への対応	<u>66.4%</u>	⇒	<u>79.3%</u>	⇒	78.1%
18	学校への参加	<u>62.4%</u>	⇒	<u>70.8%</u>	⇒	<u>85.0%</u>
19	地域への参加	<u>57.1%</u>	⇒	52.1%	⇒	<u>53.7%</u>
20	意見の反映	<u>61.1%</u>	⇒	<u>77.0%</u>	⇒	73.2%
21	タブレットPCの導入	<u>63.1%</u>	⇒	<u>63.4%</u>	⇒	<u>73.1%</u>
22	部活動の充実	<u>79.7%</u>	⇒	<u>85.1%</u>	⇒	82.4%
23	「あ・じ・み」のあ	<u>80.5%</u>	⇒	<u>94.6%</u>	⇒	94.1%
24	「あ・じ・み」のじ	※本年度新たに加えた項目				96.8%
25	「あ・じ・み」のみ	※本年度新たに加えた項目				94.1%

※「あ・じ・み」→ 五中の生活指導基本方針「挨拶・時間・身だしなみ」の徹底

※太字は前年度よりアップした項目

☆ 前年度よりアップした項目数

◎ 30年度 ⇒ R1年度 25項目中 21項目がアップ

◎ R1年度 ⇒ R2年度 23項目中 14項目がアップ

☆ 「よくあてはまる」「ややあてはまる」の肯定的の割合が80%以上の年度ごとの項目数

◎ 30年度 25項目中 5項目 ◎R1年度 25項目中 10項目

◎ R2年度 25項目中 17項目

評価委員 佐藤 栄一郎氏の分析・考察

評価項目1「学校全体の様子」

今年度は、コロナ感染症対策による学校を取り巻く環境や、学校教育自体への影響も大きい年になりました。このことは実は昨年度の締めくくりの時期から継続していることです。学習に関すること、生徒同士の結びつきに繋がる学級集団作りに関すること、そして、中学校では部活動など昨年迄とは様変わり的一年です。このような時期だからこそ、保護者や生徒は学校の推進力に期待する。反面、教員は体験のない一年を手探りで教育活動に取り組んだ訳ですから、生徒に十分な力になれたか、まだ他の方法があったのではないかと先の見えない総括をしていると思います。しかしながら、生徒も保護者も学校を信頼し、生徒はより一層の学ぶ姿勢が際立った一年ではないかと考える。

評価項目2「学力向上の取り組み」

昨年と比較して全体的には評価の上昇が見られることは、今年度のようなコロナ禍にあっても、学校の教育に対する取り組みが良かったと評価されたと考える。例えば「⑥わかる授業」では、生徒の評価が3年連続向上していることは素晴らしいことである。もちろん評価している生徒も年々入れ替わりはあるものの、2年前の56%が昨年は74%、今年は80.4%と飛躍的に伸びていることは、評価したい。加えて「⑦個に応じた指導」も同様に生徒の高評価を得ていることは実際に学力がついたと感じているからではないかと考える。さらに、生徒、保護者、教員の三者ともに家庭学習習慣の向上が挙げられています。これは、家庭での学習風景を保護者が目にする機会が増えたことや、学校からの Homework が必要だと生徒自身も気づき実行したことが「習慣」となったのだと考える。

評価項目 3 「社会性・人間性の育成」

この項目は人格形成には欠くことのできない部分です。学校では道徳教育の推進に道徳という授業だけでなく、学校の間を使った全領域での支援を行ってきました。しかしながら、この様なコロナ禍では本来学校が支援すべきことが十分にできなくなったことも事実です。その結果、「⑫道徳教育」「⑬教育相談」「⑭人間関係づくり」などの評価は昨年と比べて下がっています。これは、学校という学びの場が臨時的にでも使えなくなり、マスクを着け、友達との急を要すること以外の接触を避け、家族のことを考える等、不自由な生活様式が影響しているのではないかと考えます。どのような状況においても、社会の一員としての「自分や自分以外の人を大切にすること」という重要な社会性や、「よりよく生きるための行動ができる」ことは、道徳教育の求める姿ではないかと考える。

「⑮自治的な活動」は評価が分かれています。教員評価は昨年よりもポイント低い評価になっているが、生徒の評価は昨年よりも3%強良いい評価になっている。これは、本来なら計画的に実施されるはずの学校行事が、かなり集中的に重なるようにあることで、生徒は積極的計画的に自らの判断で実行しようとする気構えが育ったのではないかと考える。これは、ある意味試練だったかもしれないが、それを乗り越えるだけの「考え、話し合い、推進する」ことのできる生徒たちが育った証拠と考える。

評価項目 4 「保護者・地域の連携」

「⑯情報発信」の項目では、生徒からの評価が良く練っている。生徒が「分からないこと」に対して、学校の情報配信が適切だったあかしだと考える。保護者や教員の評価は高いものの生徒の評価との差は大きい。この食い違いを埋めることが大変だとは思いますが、差を縮める努力は忘れずにいてほしいと考える。「⑰学校への参加」の項目では、例年の生徒の評価では62.4%、70.8%そして今年は85%と評価が良い。もちろん保護者の評価も83%から90.9%となっている。学校公開週間や学期末の保護者会などは運動会や学習発表会に比べて参観される方は少ないことが多く残念である。しかしながら、今年は密を避けながらも学校の行事に参加する保護者や地域の方も多く、学校への関心が高い年だと考える。それだけに、十分な情報発信が大切だと考える。

評価項目 5 「特色ある教育活動」

「⑱タブレット PC の導入」の項目では、生徒の評価は昨年と比べても向上している。コロナ禍にあつて本来学校で学ぶべき内容の遅延を少しでも少なくすべくタブレット PC 等を使った学習形態もとられました。この結果学ぶ手段としてのタブレット PC の活用機会が増えたことが、生徒の評価の上昇に繋がったと考える。これは、日頃から学校教育でタブレット PC を使うことで、ほとんどの生徒がこの非常事態宣言の中に有っても、大きな混乱もなく大きな学習遅延もなく進められたことは素晴らしいと考える。「⑲あ.じ.み」の項目では、コロナ禍にあつて学校行事の変更や縮小規模実施、加えて学校公開週間の中止などにより普段の学校生活を保護者が見る機会を失ったために評価しようがない事態になりました。私が第五中学校を訪れた時、例年なら校庭で活動する生徒から「コンチワー！」と大声と笑顔が印象的でした。しかし、今年は同じ挨拶でもマスクにこもった声とともに、マスク越しに見える優しい眼が見えるだけでした。今年度は学校公開週間や運動会でさえも見られない状況でした。しかしながら、「挨拶をすすんでする・時間を守る・身だしなみを整える」は確実に例年よりも一層生徒の皆さんも心がけていると感じました。

評価結果を受けての学校の改善方針

1「**学校全体の様子**」では、「③基本的な生活習慣」の項目の教員の評価が低くなっている。これは、生徒の基本的な生活習慣について、コロナ禍にあつては把握できないことが多かったことが原因だと考える。この項目では、生徒の通学態度や身だしなみ、挨拶等についての評価項目であるがために、ほとんど評価できなかったのではないかと考える。加えて、授業や諸活動であっても、コロナ禍以前の学校生活の中では生徒一人一人の反応がすぐに感じるものがあった。しかしながら、現在は家庭学習の基本がデジタル教材であることが多く、手探りな中にも手応えのない初めて経験するものであったと考える。

2「**学力向上の取り組み**」では、「⑩学校図書館の活用」の項目の保護者の評価が低くなっている。これは、保護者のテレワークによって、我が子の生活習慣の中に「読書をする」機会があまりに少ないことが見えてきたことだと考える。家庭での学習時間以外は外出も制限された子ども達は、テレビジョン鑑賞やゲームが主流だったのではないのでしょうか。家庭での学習以外の時間で好きな本を読書することを保護者は願っていることの表れだと考える。外出を制限された生活を見通しに有った時に、「家でのいるのだから多少はゲームもいいか？」と考えた家庭は少なくないと考える。まだコロナ禍にある今、この体験を生かすことも大切だと考える。

3「**社会人・人間性の育成**」では、「⑮自治的な活動」の教員の評価が低い。これは、生徒達が人への思いやりの機会を制限された中では十分に履行できなかったという、教員のもがきやジレンマの現れだと感じる。第五中学校は道徳教育推進校であつたり地域に貢献する学校としても荒川区長から表彰を受けた学校だけに教員側の残念さが伝わってきます。では、コロナ禍だからできることはないのだろうか？生徒に考えさせる機会を与えることで共に考えることも良い機会だと考える。

4「**保護者・地域との連携**」では、「⑲地域との連携」の教員や保護者の評価が低い。このことは前の「⑮自治的な活動」の評価が低かったことと一致する項目である。「今迄はこうだった」だから「こうしなくては！」ではなく、「こういう考え方や、やり方はどうだろうか？」という柔軟性も必要ではないかと考える。しかしながら、今年度の評価を総合的に見ると、学校の取り組みは十分に評価されていることは間違いない。この評価に甘んじることなく先の見えない中でも、生徒や保護者地域から頼られる学校という誇りを大切に育てて行って欲しいと考える。

5「**各学校の特色ある教育**」では、「㉑タブレット PC の活動」は、やはりコロナ禍にあつてタブレット PC の本来の活動ができたことで、生徒にとっては学びの活動ができるようになったと評価が高くなった。生徒がタブレット PC でホームワークができたことで、「タブレット PC で授業の代わりができるなら、これでやればいいじゃないか」等と乱暴な意見が報道番組で冗談半分でも語られたことがあったが、あながち的を外れていないかも知れない。確かにドリル形式で教科書にも準拠はしているが、授業者が語る言葉には生徒に驚きや興味関心を引き出す「活きた言葉」があるはずである。これはコロナ禍に有って教育の要の教員へのある意味試練だと考える。「㉒部活動の充実」は、学校が休業し分散登校が有り、加えて部活動の練習試合や公式試合迄も今年度の三年生は経験ができなかったことは、本当に残念に思います。それだけに、日頃から部活動を支えてくれた方々にも感謝の気持ちも育ったことと考えます。また、第五中学校の「あ・じ・み」の三項目ですが、それぞれがコロナ禍の影響を受けていると思いますが、全体的に良い評価だと感じました。令和2年度はコロナに始まりコロナで暮れそうですが、振り返れば令和元年度の卒業式、令和2年度入学式、様々な学校行事の変更を余儀なくされました。その中に有って、学校評価が以前にも増して高評価だったことは、第五中学校を支えて下さっている皆さんが、結束した互いに感謝の気持ちを持ち続けているからだだと考える。第五中学校が地域社会の中心として有るためには、今迄に構築してきた地域からの信頼や感謝の気持ちを大切にすることと、地域の中の学校として貢献活動を展開させて行くことが重要だと考える。